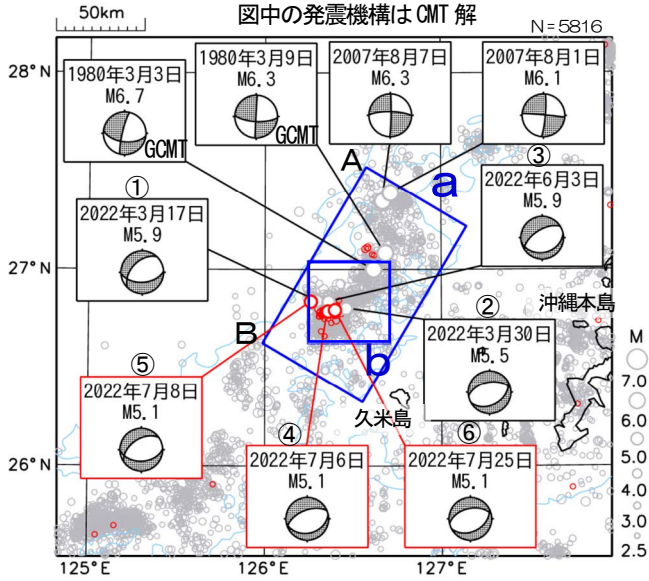


沖縄本島北西沖の地震活動

震央分布図

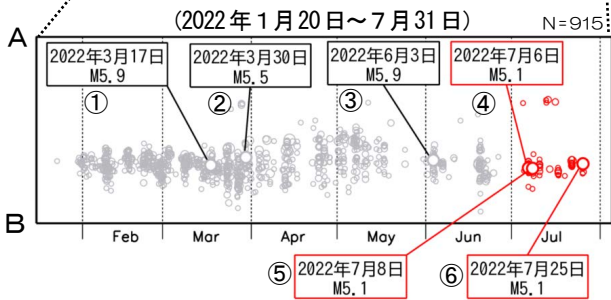
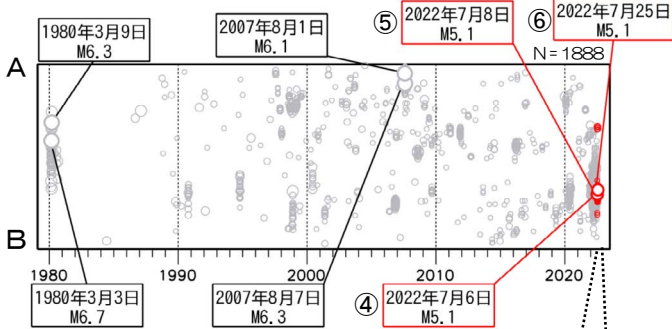
(1980年1月1日～2022年7月31日、
深さ0km～60km、 $M \geq 2.5$)
2022年7月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解



図中の水色の等値線は水深1500mを示す。
※1980年3月3日および3月9日の地震の発震機構はGlobal CMT

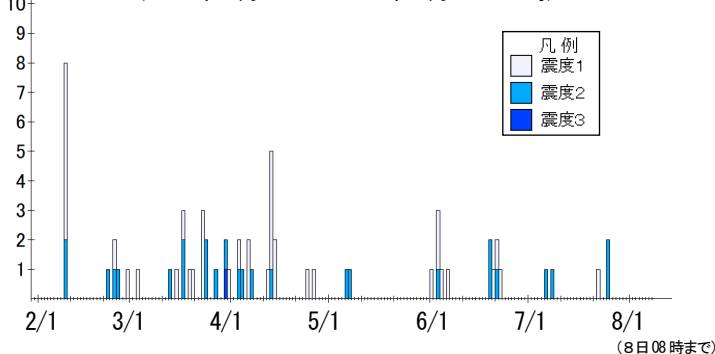
領域a内の時空間分布図 (A-B投影)

(1980年1月1日～2022年7月31日)



震度1以上の日別最大震度別地震回数図

(2022年1月30日～2022年8月8日08時)



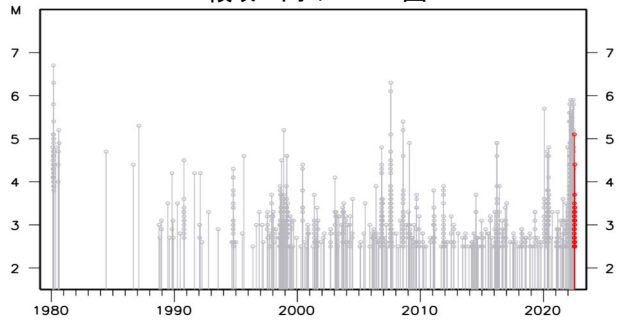
沖縄本島北西沖では、2022年1月30日から地震活動が活発になり、その後消長を繰り返しながら継続している。7月中旬に震度1以上を観測する地震が5回 (震度2: 4回、震度1: 1回) 発生した。7月中旬の最大規模の地震は、6日、8日及び25日に発生したM5.1の地震 (いずれも最大震度2、それぞれ図中④、⑤、⑥) であった。これらの地震の発震機構 (CMT解) は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。

活動の全期間を通じて、最大規模の地震は3月17日及び6月3日のM5.9の地震 (いずれも最大震度2、それぞれ図中①、③)、最大震度を観測した地震は3月30日のM5.5の地震 (最大震度3、図中②) であった。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生している。

1980年1月以降の活動をみると、今回の震央周辺 (領域a) では、M5.0以上を最大規模とした地震活動が時々みられる。1980年2月から3月にかけて活発化した際には、同年3月3日にM6.7の地震 (最大震度3) が発生した。

領域a内のM-T図

N=1888

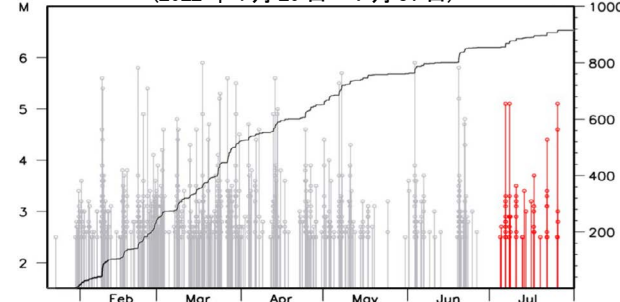


(この期間の検知能力は低い)

領域b内のM-T図及び回数積算図

(2022年1月20日～7月31日)

N=915



震度1以上の最大震度別地震回数表

(2022年1月30日～2022年8月8日08時)

月別	最大震度別回数			震度1以上を観測した回数	
	震度1	震度2	震度3	回数	累計
1月30、31日	0	0	0	0	0
2月1日～28日	8	5	0	13	13
3月1日～31日	9	7	1	17	30
4月1日～30日	12	4	0	16	46
5月1日～31日	0	2	0	2	48
6月1日～30日	8	4	0	12	60
7月1日～31日	1	4	0	5	65
8月1日～8日08時	0	0	0	0	65
総計	38	26	1		65